

令和 7 年 4 月発行 第 24 号

成田剣道連盟だより

発行：成田剣道連盟 広報委員会

Tel： 0476-42-6294

新年度がスタートしました。本年度上期の行事予定、中村充先生剣道八段昇段祝賀会、昇段審査の寄稿文、大会結果などを紹介いたします。

令和 7 年度上期の行事予定は以下の通りです。現時点で判明しているもので、今後変更の可能性もありますのでご留意ください。

4 月	4/9（水）：成田剣道連盟月例稽古会（成田高等学校剣道場） 4/23（水）：成田剣道連盟月例稽古会（成田高等学校剣道場）
5 月	5/14（水）：成田剣道連盟月例稽古会（成田高等学校剣道場） 5/18（日）：級位審査会 1～3 級（大栄 B&G 海洋センター体育館アリーナ） 5/18（日）：成田剣道連盟総会（大栄 B&G 海洋センター体育館アリーナ） 5/28（水）：成田剣道連盟月例稽古会（成田高等学校剣道場）
6 月	6/11（水）：成田剣道連盟月例稽古会（成田高等学校剣道場） 6/25（水）：成田剣道連盟月例稽古会（成田高等学校剣道場）
7 月	7/9（水）：成田剣道連盟月例稽古会（成田高等学校剣道場） 7/23（水）：成田剣道連盟月例稽古会（成田高等学校剣道場）
8 月	8/27（水）：成田剣道連盟月例稽古会（成田高等学校剣道場）
9 月	9/10（水）：成田剣道連盟月例稽古会（成田高等学校剣道場） 9/24（水）：成田剣道連盟月例稽古会（成田高等学校剣道場）

★成田剣道連盟月例稽古会の 10 月以降の予定については、決定次第成田剣道連盟より連絡いたします。なお、重兵衛スポーツフィールド中台体育館（成田市体育館）については、令和 8 年 2 月末まで工事が予定されています。

前回の連盟だより発行以降今号までの間に称号を取得された方の紹介、七段に合格された方の寄稿文をご紹介します。

「七段合格」

成田市 玉造剣友会 加田久志

この度、2月の福岡審査会において昇段することができました。

思い返せば2年前、秋葉会長の叱咤激励を受けて送り出された5月の愛知審査会から、七段への挑戦が始まりました。

何度も合格には至らず、何が駄目なのか、何が足りないのか、どうすれば良いのかと悩んでいた時、六段・七段を初回で合格した兄から「何度も駄目だったんだから、もう迷うことはないだろう。相手だって打ちたがっているんだから、しっかりと攻めて、相手が我慢できなくなったところを思い切り跳んでみろ」と言われました。

その言葉がまさに全てで、シンプルな言葉ではありますが非常に奥深く、実際に何となくですがその感覚を掴めたのは、今回の審査の一週間ほど前でした。

本番でも攻めを意識し、一人目の初太刀で先々の先を捉えることができました。

しかし、二人目に打ち込んだ面が届かず、胸に引っ掛かり、さらに同じことを二度繰り返してしまい、「ああ、今回も駄目か」と思いました。帰り支度をしようかと考えていたその時、合格者の番号が掲示され、自分の番号を見つけましたが半信半疑で、思わず係の方に「ありますよね？」と確認してしまいました（笑）。



最後になりましたが、日頃からお世話になっている玉造剣友会・加良部剣友会の先生方、稽古をつけていただいた成田剣道連盟の諸先生方、そして無理を言っても温かく応援してくださった職場の皆様に、心より感謝申し上げます。

そして何より、こんな私を励まし応援してくれた家族に感謝です。ありがとうございました。

2024年11月、宝田練武館の高見文男先生が教士を、成田剣友会の渡辺裕幸先生、直心剣友会の石村美智也先生が錬士の称号を取得しました。おめでとうございます！

< 剣道級位審査会 >

11月10日（日）に開催された昇級審査の受審者と合格者は下記の通りでした。

1級：17名受審15名合格

2級：99名受審91名合格

3級：17名受審17名合格

中村充先生剣道八段昇段祝賀会

既報のとおり、中村充先生が令和 5 年 8 月 11 日に行われた剣道八段審査において、見事合格されました。この快挙は成田剣道連盟にとって 5 人目の八段合格者となり、先生の長年にわたるご精進と弛まぬ努力の結晶です。この度のご合格を祝し、成田剣道連盟主催により、令和 6 年 12 月 15 日に成田市内のホテルで祝賀会を開催いたしましたことをご報告申し上げます。

祝賀会では、成田剣道連盟会長の秋葉先生をはじめ、多くの先生方が祝辞を述べられました。秋葉先生は、中村先生の八段昇段を「成田剣道連盟にとって 5 人目となる輝かしい名誉」と称え、その功績を高く評価しました。また、中村先生が 9 回目の一次審査合格を経て、見事な剣道で八段に合格したことに触れ、先生の努力と粘り強さを称賛しました。さらに、中村先生を支えてきたご両親、幼馴染、恩師、そして奥様への感謝の気持ちを代弁し、中村先生の出身校である金沢桜丘高校剣道部の目標、「心を育て、自信をつけ、社会に貢献できる人間を目指す」や、「真剣に本気に取り組み、本物を身につける」という姿勢が、中村先生の剣道人生と重なり、八段合格へと繋がったと語りました。



前会長の米元先生は、八段合格を「1%という超難関突破」と表現し、1000 人中わずか 10 人しか合格しないこの狭き門を突破した中村先生の努力を称えました。米元先生自身も経験した八段審査の厳しさに触れつつ、中村先生が様々なアドバイスを咀嚼し、自分に合ったものを取り入れながら試行錯誤を続けた結果、合格に至ったと分析しました。また、合格後の中村先生の立ち姿から「欲が取り払われた姿」を感じ、これが合格の理由の一つであったと述べました。今後の活躍を期待するとともに、健康に留意し、剣道界に貢献し続けてほしいと願いを込めました。

相談役の斎藤実先生は、中村先生が 20 代の頃から成田高校に通い、稽古に励んでいた姿を回顧し、当時から八段に合格するだけの素質を感じていたと述べました。また、中村先生が順天堂大学剣道部の監督として学生を指導し、素晴らしい成績を収めていることにも触れ、指導者としての優れた資質を評価しました。さらに、奥様が成田高校の女子生徒を指導していたことにも感謝を述べ、中村先生の八段合格は奥様の支えがあっ

たからこそと語りました。最後に、斎藤実先生は剣道人口減少という課題に言及し、中村先生には大学教授としての立場を活かし、未来の剣道界を担う指導者の育成に尽力してほしいとの期待を表明しました。

中村先生は、平成4年に富里に転居し、社会体育館で剣道を始めたことが成田剣道連盟の先生方との出会いに繋がり、30年間お世話になったことへの感謝を述べられました。萩原忠市先生、瀧口正義先生、斎藤輝男先生との厳しくも温かい稽古が、剣道を続けるモチベーションとなったと振り返り、八段審査に挑戦してから12年間という長い年月を経て合格を勝ち取った喜びを語りました。また、全剣連の活動を通じて多くの先生方と交流し、多くを学ぶ中で、自身の剣道を見失った時期もあったことを明かしましたが、コロナ禍を機に改めて自身の剣道と向き合い、大学や成田剣道連盟での稽古に集中することで再び剣道に打ち込むことができたことと述べました。

さらに、中村先生は、八段合格に繋がる転機として、米元先生との稽古で自身の剣道を広げる技を授かったことや、川畑富保先生による講習会で「立ち合いは試合に臨むつもりで行いなさい」という教えを受けたこと、大村先生との立ち合いで感銘を受けたことを挙げました。



最後に、中村先生は、12年間の挑戦を「価値のある12年間」とするために、今後も精進を続けるとともに、成田剣道連盟に貢献する意志を示されました。豊富な経験と人脈を活かし、若い世代の指導者育成や剣道普及に尽力し、大学生や子どもたちに剣道の楽しさを伝える活動を積極的に行う意向を示しました。そして、萩原先生が温かく迎え入れてくれたように、自身も気軽に声をかけてほしいと呼びかけ、先生方とともに剣道に励む決意を改めて表明しました。

中村先生の八段昇段は、成田剣道連盟にとって大きな喜びであり、今後のさらなる発展を予感させるものです。先生のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

地区連盟対抗剣道優勝大会

令和6年11月17日、第72回地区連盟対抗剣道優勝大会が船橋アリーナにおいて開催されました。本大会は、令和元年以来となる従来の四部制（小学生・中学生・高校生・一般）に戻して実施され、千葉県内26地区が参加し、熱戦が繰り広げられました。

我が成田地区の選手は、残念ながら小学生の部、中学生の部、および高校生の部では初戦敗退となりましたが、一般の部においては見事3位入賞を果たし、健闘いたしました。成田地区としては6年ぶりの入賞となります。

特に、先鋒および次鋒を務めた大学生は、若さあふれる元気な試合運びを見せ、観戦する者にとっても非常に爽快な試合内容となりました。

役員、選手、応援の皆様、大変お疲れ様でした。来年は優勝を目指し、さらなるご活躍を期待しております。



(小学生の部)

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	取得本数	勝敗	代表
成田	辻本 暁也	武井 海音	坂上 悠翔	湊 大貴	新島 雅人	2	5	敗	
	コ	×	×						
	コ	×	×						
匝瑳		×				2	6	勝	
	×	×		×	コ				
				×	×				
	関川 昊希	服部 詩	薬師寺 陽	加瀬 龍春	越川 志道				

(中学生の部)

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	取得本数	勝敗	代表
成田	西岡 夏輝	大塚 明里	安齋 優翔	澤田 陸玖	横山 隼士	0	1	敗	
				✕					
習志野			✕			4	8	勝	
	✕	✕		✕	✕				
	✕	✕		✕	✕				
	越川 陽太	久我 愛菜	杉本 晃史朗	櫻井 蒼大	山口 結土				

(高校生の部)

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	取得本数	勝敗	代表
山武	川島 太志	鈴木 ゆり乃	篠崎 勝蓮	長橋 諒汰	北田 季也	2	6	勝	
			▲						
	○	✕		コ	✕				
	○			✕					
成田						0	3	敗	
		✕		✕	✕				
	平井 友健	熊谷 南美	吉岡 奏多	丸 優人	田中 和太郎				

(一般の部)

一回戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	取得本数	勝敗	代表
我孫子	山口 恭平	角田 実優	栗田 玲也	今橋 知宏	菅原 正勝	0	2	敗	
				▲	▲				
	✕		✕						
成田			✕	✕	✕	2	5	勝	
	コ	✕	コ						
	コ	✕							
	本間 大雅	岩井 南美	大野 聖耶	山崎 孝	小松 梓				

二回戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	取得本数	勝敗	代表
成田	本間 大雅	岩井 南美	大野 聖耶	山崎 孝	小松 梓	2	5	勝	
		✕	反		✕				
		✕			コ				
	✕					1	2	敗	
野田			✕	✕					
			▲2	▲	▲				
	矢山 裕貴	堤 若葉	吉岡 尚毅	荒田 幸樹	副 康一				

準々決勝

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	取得本数	勝敗	代表
長生	遠藤 優生	岩佐 朋美	石渡 匠	鶴見 友登	小関 歩	0	0	敗	
			✕	✕	✕	2	3	勝	
成田	コ	✕							
		✕							
				▲	▲				
	本間 大雅	岩井 南美	大野 聖耶	山崎 孝	小松 梓				

準決勝

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	取得本数	勝敗	代表
成田	本間 大雅	岩井 南美	大野 聖耶	山崎 孝	小松 梓	1	4	敗	
		コ	✕		ツ				
			✕						
	✕	コ		コ	✕	3	5	勝	
柏					✕				
	高木 琉生	越田 百香	紅谷 央	千葉 由樹	小野寺 大輔				

前編集長によるエッセイ：成田剣道連盟便りの前編集長である北総中央剣友会の菅原信夫先生からエッセイを寄稿いただきました。

剣道とスポーツについての考察 印西市 北総中央剣友会 会長 菅原信夫

私が所属している剣友会では世話役さん方が中心になって定期的に剣友会だよりを発行しています。行事の案内や大会結果、昇級・昇段の報告などが記載されますが、合わせて順繰りに各先生方の寄稿文も載せられます。先月は私の番となりましたので、時折子供たちから聞かれる掲題のことについて書いてみました。読んだ方から成田剣道連盟便りに載せてもいいのでは・・・といわれ、それもそうだなと思いまして転載します。会員の小学生向けの文章なのでご理解の上お読みいただければと思います。

(以下、北総中央剣友会の剣友会だよりに掲載された内容を転載いたします)

剣道大会で選手代表の宣誓をするのに。「我々選手一同はスポーツマンシップに基づいて正々堂々と戦うことを誓います」と言おうと思って選手宣誓の練習をしていたら「スポーツマンシップではなく剣道精神に基づいて」と言いなさいと注意されたことはありませんか。

えー、剣道はスポーツなんじゃないの？

そう、剣道はスポーツではないのです。

それじゃー剣道とスポーツは何が違うの？

それでは剣道とスポーツが違うということを見ていきましょう。

そもそもスポーツとは何かというところから考えましょう。スポーツの語源（その言葉のもと）はデスポールという言葉で、これはヨーロッパの古いラテン語という言語です。デスポールの意味は「気晴らし」とか「娯楽」です。ヨーロッパの人々がつらい生活の中に楽しみを見つけて遊んだのがスポーツの始まりです。マラソン選手が苦しそうな顔をして走っているのを見るととても気晴らしとか娯楽とかは考えられませんがスポーツのもともとは遊びなのです。

一方剣道のもとをたどれば昔のおさむらいが、戦場で戦うために剣を使ったものであり、戦乱の無い時代に入ってから武士の精神修養の手段として受け継がれてきたものなので、遊びの要素はありません。試合に勝つことが面白いと思って剣道をスポーツのように楽しんでいる人もいますが、剣道はもともと気晴らしとか娯楽のためにやるものではないのです。

また、次のようなことにも違いがあります。スポーツは試合に勝つことが第一目的ですから、必要とあればルールぎりぎりの試合運びも許されます。時には反則になる事を計算に入れた上で相手の体にダメージを与えることすらします。

一方剣道は人間としての成長を目的として、正しい行いをすることが重視されるので、規則があろうとなかろうと正しい態度が尊ばれ、反則から最も遠い試合運びが良しとされます。

スポーツ選手の中にも自分の人間性を高めようと思って練習に励み「道」の考え方が広まっている一方、試合を中心に考えて剣道がスポーツのようになっている人もいますので、スポーツと剣道の境目があいまいですが、もとをたどれば違うものであると思ってください。

だいぶ以前のことで、団体戦の選手に選ばれなかったのが面白なくて剣友会をやめてよそに行った子供がいましたが、結局そこもやめています。彼はそもそもの考え方が間違っていたのです。

剣道をやっていて、面白くない、楽しくない・・・と思ったら、それは当たり前のことだと考えてください。

もし稽古が厳しい、つらい・・・と思ったら自分は本当の剣道をやっているのだと思ってください。

編集後記

前回発行時、「次回以降、各種大会の取材なども行い、広報活動を充実していきたい」と言いつつ、仕事とプライベートで忙しく、結局ほとんど取材に行けませんでした。ビジュアル的によくなるだけでなく、実際に見て、感じたことを伝えることが重要だなと感じていますので、今期こそは。。

昨年度まで広報委員長を務められた武藤輝久男先生が広報委員長を勇退しました。これまで暖かく見守っていただきありがとうございました。今期は以下のメンバーです。

広報委員長：上田泰久、副委員長：花島弘樹、広報委員：堀部協